

# 公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟 役員選任「立候補意思表明書」

2025年 5月 8日 氏名 竹村 治雄

【JHF活動履歴】2001年 フライヤー会員 2006年 PGパイロット 2012年 PG XCパイロット
PG タンデムパイロット、助教員、2014年教員、2022年上級タンデムパイロット(2024年まで)
2016年 安全性委員会委員 (2018年より委員長) 2021年6月まで
2018年 ハング・パラ振興委員会委員 2021年6月まで
2021年 6月 理事 (安全性委員会、制度委員会 担当)

## 【JHF定款への理解】(どれかひとつを選択してください)

熟知している ある程度理解している 一通り目を通した これから目を通す

## 【立候補意思表明】公益社団法人としてのJHFの活動に関するご自身の考え。

その際に下記2点を含めて下さい。

- (1)今後のJHFが活動していくべきと考える事
- (2)ご自分が役員として実践していきたい事

### (1)今後のJHFが活動していくべきと考える事

日本航空協会の傘下にあり日本のハンググライディング・パラグライディングを統括する団体としての責務を果たせるように、組織が円滑かつ効率的に運営されることが重要であり、理事会はその要の役割を担うと考えています。そのためには、関係諸機関との連携や折衝を円滑に行い、同時に、このスポーツについての、正しい知識を広め一般の方からフライヤーまで多くの方に、ハンググライディング・パラグライディングの楽しさを伝えていくことがJHFの活動には求められていると考えます。また、同時に空を飛ぶということは、常に安全性に考慮して行動することが求められており、スカイスポーツに内在する危険性についての正しい理解とそれに対する対策についても、フライヤー会員のみならず一般の方々にも正しい知識を届けることが重要です。インターネットが広く普及し、誰もが情報発信できるということは、万が一の事故やインシデント発生時にも機動的に対応できる仕組みを構築しなければ、不正確な情報が独り歩きてしまい、私たちのスポーツに対しての規制強化につながりかねないことを常に考えた組織運営を行う必要があると考えます。

### (2)自分が理事として実践していきたい事

私は、今までの安全性委員会並びにハング・パラ振興委員会の委員としての活動および、安全性委員会、制度委員会担当理事としての経験を生かして得た経験をベースに前述のJHFとして活動していくべき内容を実現すべく努力する所存です。具体的には、安全性委員会活動に関しては、ハング・パラグライディングに関してのより多くの安全性に関する情報収集と分析を行える体制と制度の整備を引き続き行いたいと考えています。また、安全に関する情報発信をJHFリポートだけでなくフライヤー会員を対象としてオンラインセミナー等の実施を検討します。また、ハング・パラグライディングの振興に関しては、このスポーツに対する一般の方々の理解を深め、同時にこのスポーツに興味を持たれた方が実際にはじめる際に何が障壁となっているかを分析し、より多くの方がこのスポーツを楽しめる環境の構築に貢献したいと思います。さらに、ハング・パラの競技の楽しさを情報発信することで、自ら競技に参加したいというフライヤー会員を増やすことがフライヤー人口の増加につながると考え、競技に関する情報発信も支援したいと思います。さらに、ヨーロッパではハイク&フライのような楽しみ方も発信したいと思います。加えて、大学でIT系の教員としての知識を利用して組織運営の効率化や、情報発信力の強化にも貢献したいと思います。具体的には、技能証やフライヤー会員証の電子化を行い、関連する入会申請、住所変更、会費請求などの業務のオンライン化を実施し、フライヤー会員にとっての利便性を向上すると同時に、組織としての運営コストを低減したり、JHFリポートの発行以外に電子化されたニュースレターの発行などを

通じて、フライヤー会員及び正会員との情報共有の機会を増やしたと考えています。

どうぞよろしくお願ひします。

※この立候補意思表明書は JHF ホームページに掲載し一般にも公開されます。

文字数制限はありません、また必要に応じて用紙を増やして下さい。